

「第2次白山市教育振興基本計画（案）」に対するご意見と市の考え方について

募集期間：令和7年1月8日(水)～1月21日(火)

結 果：2名の方から7件の意見

パブリックコメントに寄せられた計画案へのご意見・ご要望と、それに対する市の考え方は以下のとおりです。

ご意見、ご要望	市の考え方
【はじめに…】 一人でも多くの方が、そして自分の地域が同じ方向を見て歩んでいける、誰ひとり取り残さない小学校・中学校になることを心から願っています。 教育振興基本計画・3ページ（教育をめぐる社会情勢）は、まさにこの通りだと思う。今、考えるべきはどうしたらこのような社会で、この先子供達が生きていけるかということ。そのために教育や学校がどうあるべきかということを問い直してほしい。 子供の自立が最上位であって、あくまでもその手段としての知・徳・体である、という認識を今一度問い直しをしてほしい。子供を管理するのではなく、子供が自分の言葉で語るようにするにはどうしたら良いのか。 社会性よりも主体性を重視する教育への転換。学校や授業のあり方、全員が黒板を見る一斉授業や校則やルール、個別担任制、号令、今までと同じことをしていて果たしてこれからの時代を生きる子供が育つのか。 常に子供が主語になっているのか。先生主体の指導から子供が自ら学ぶ姿をどうやったら作り出せるのか。	教育の在り方全体へのご意見として承りました。 子どもの自立性や主体性を重視することや、教師・地域住民・保護者は、子どもたちの先導者ではなく伴走者となることなど、ご指摘のとおりと考えます。 一方で、協調性や思いやりの心など、社会性も大切に育むべきことと捉えており、家庭や地域と連携しながら、バランスの取れた教育が必要と考えております。

ご意見、ご要望	市の考え方
教える学校から学ぶ学校へ。教師・地域住民・保護者は先導者から子供の伴走者へ。 不登校・子供の自殺増加など、今おかれている子供の事実は、これまでの学校教育・教師・保護者・地域・子供を取り巻く全ての大人の行動や言動の結果なのかもしれません。	
【いじめ・不登校に関して】 いじめ・不登校の未然防止のために第一にすることは、学校・職員室・地域の雰囲気・空気を作り直すこと まずは、大人自身がいじめや差別をしていないか。子供は大人を常に見ている。どんな子供にとっても職員室・教室・学校・地域が安心・安全な空気を作り出せているのか。まずは大人自身が他人の失敗を認め合い、エラーアンドトライを繰り返し、手を取り合って助け合っている・互いに学び・楽しみ、心から笑える空気を作っているのか。その姿を子供達は見ています。子供ではなく大人が問われている。 いじめの早期発見・早期対応の前に、まず子供のトラブルに関して大人が評価して、解決するという意識改革からすべき。 いじめやトラブルが起こったら、気づいた時点で大人が止めに入ることはできるけど、トラブルを起こらないようにすることはできない。起こさないようにすること、やめられるのはあくまで子供達本人である。そのために二項対立や多数決ではなく、平和的に解決するという目的のために、お互いがどうしたら合意できるかという民主主義の考え方を持つ子を育てる。すでに従来	ご意見のとおり、いじめや不登校等への対策にあたっては、地域との連携も重要であると考えます。 市内の全小中学校で設置している「学校運営協議会」には、教職員や保護者のほか、地域住民の方にも参画いただいております。学校と地域とが力を合わせて学校の運営に取り組むものです。 そのなかで、いじめや不登校への対応についても共有し、協働していくことが考えられることから、基本施策5「いじめ・不登校等への対策」における施策の方向性（4）「家庭・地域・関係機関との連携の推進」の具体的な取組例に、学校運営協議会との連携を加えることとします。

ご意見、ご要望	市の考え方
型の教育を受けて主体性と当事者意識を失った子供達のリハビリをする。 対話を通して解決するという姿を大人同士が行い、子供達に見せる必要がある。 生死に関わるようなこと、犯罪にもなるような例を除いては、まずは子供たちが（直接の加害者でない人たち・無視も含めて）当事者意識を持つこと・どうしたらみんな幸せになれるのか、どうしたら平和的に解決できるのか、その方法を考えられる人に育つようにサポートすること（日頃の些細なトラブルや揉め事からでもサポートすることができる）トラブルはチャンス。保護者も当事者として巻き込み、子供達自身が解決していくための協力者とする。そのためのスキルを大人も磨く。 不登校に関して保護者・地域住民、全ての人たちがサポーターになって、どうしたら学校に行けるのかみんなで考える。学校に行くことが目的ではなく、学びを保証することが目的のはず。今一度、何のために学校に行くのかを問い直したい。	
【特別支援について】 多様化・また増加する特別支援に関してインクルーシブ教育の取り入れ。障害のある子は特別支援へ。 健常な状態に近づくように、将来社会に出れるように・・・というその子のためにという分断教育ではなく、重度の障害を持っている子でも、本人が望むのであれば同じ教室でみんなと同じ空気を吸える。同じ教室でどうやったら一緒に過ごせるか。個性として認め合える環境をどうやったら作れるか。考えあう、協力し合う。そのことが障害を持ってない子にとっても学びにな	前段につきましては、基本施策14「共に学ぶ教育の充実」の趣旨等に合致しており、ご賛同いただいたものとして承ります。 計画14頁のグラフ、全国学力・学習状況調査から引用した自己肯定感等のデータにつきましては、日本の子どもの自己肯定感や幸福度が世界的に低いことなどを意図されてのご意見と拝察いたします。一方で、幸福のとらえ方は国民性によっても異なることから、本市の計画のなかでは、全国や県との差異を記載するにとどめたいと考えております。

ご意見、ご要望	市の考え方
る場になる。これからの多様化する世の中を生きる子供を作ることに繋がる。 大人自身が特別支援の子供に対してどういう風に接しているのか。排除してないないか、を子供達は常に見てる。 教育振興基本計画・14ページのグラフは、ぜひ世界とも比較してほしい。	
【働き方改革について】 子供の学力を上げるために家庭での学習時間を長くする、学習習慣が大切という考え方があるかぎり働き方改革は進まない。 保護者・地域住民もご意見番ではなく、当事者意識を持ちサポーターとして学校の中に取り入れる仕組み作り。	ご意見のとおり、教員の働き方改革を推進するにあたっては、保護者や地域住民の方との協働も不可欠と考えます。 白山市における取組は、毎年更新している「教職員の健康を保ち、子供によりよい教育を行うための多忙化改善取組方針」で定めており、保護者の方へもお知らせしております。 加えて、前述の「学校運営協議会」でも共有し、方針の実現に取り組んでいくことが考えられることから、基本施策15「教職員の資質・能力の向上」における施策の方向性（3）「教職員が本来の業務に専念するための環境づくり（教員の多忙化改善）」の具体的な取組例に、保護者や地域等と連携を加えることとします。 なお、子どもたちの「確かな学力」を育むことは重要ですが、本市では、それ以上に豊かな感性を育み、学ぶ楽しさを感じ得させることを重視しており、家庭での勉強（学習）時間を長くすることに重点をおいてはおりません。

ご意見、ご要望	市の考え方
【最後に…】 困っている子に、指導ではなく「何に困ってる？私に何かできることある？」と声をかけれる大人（友達）を一人でも多く作ること。 教育とは、指導や管理ではなく子ども達が多様な中で子供同士自ら学び合う環境を作ること。自分で考え、自分の言葉で語り、行動する力を付ける。その中で、間違えたり人を傷つけたり失敗したらやり直しをしたら良いだけ。その過程を見守りサポートする環境作りこそが大人がやるべきことだと思います。 消しゴムの色や靴下の色まで管理された環境の中で、この先、国籍もジェンダーも考え方も違う多様な社会で、お互いを認め合うことのできる子供を育てることが出来ますか？ これから未来を生きる子供のために、前例踏襲で行われてきた全てのことに對して、今こそ問い直ししませんか？ まずは職員室が「困った助けて！」って入ってこれる場所になっているか、大人自身が「また失敗した、どうしたらいいかな？」と相談できる場所になっているか。そんな空気を子供が吸って、手を取り合う大人を子供は見て学んでいると思います。	教育の在り方全体へのご意見として承りました。 ご指摘のとおり、少子化がますます進む一方で教育的ニーズが多様化する昨今、従来の画一的な指導方法や学習環境等を安易に前例踏襲することなく、不易流行に留意した教育の創造に向け努めてまいります。
「食育について」 はくさん3育の中にも「食育」を入れて下さりありがとうございます。白山市はほとんどの学校で自校調理方式を採用してくださり、子どもたちに毎日おいしい給食を提供くださっていること、大変感謝しております。米を初め、地元の野菜など地産地消にも取り組んで下さっており、とても素	「はくさん3育」として取り組む「食育」の重要性についてご賛同いただき、ありがとうございます。 食育を通じて、子どもたちが食の安全について学ぶ必要があることや、このような取組が白山市の環境や生物多様性を守ることや地産地消の活性化にもつながることなど、ご指摘のとおりと考えます。

ご意見、ご要望	市の考え方
晴らしいと感じています。 しかし、資本主義社会の中で大量生産・大量消費が促される中、食の安全についてもっと知り、学ぶ必要があると感じています。白山市環境給食まちづくり協議会でも進めている通り、白山市の農業者と手を取り合って、白山市で農薬、除草剤や化学肥料を使用せずに栽培された作物を子供達の給食に使ってもらうことで、安全な食の提供だけではなく、白山市の環境や生物多様性を守ることにともつながり、また白山市の地産地消の活性化にもなります。1つの取組みが様々な課題解決にリンクし、よい町づくりに繋がっていくはずです。 さらに一步踏み込んで、一部の幼稚園で行われているようなオーガニック給食を実現できれば、腸内環境が整い、身体的にはもちろん、精神的にも落ち着き、結果学びの主体性や学びの質が変わることにも繋がります。この辺りの情報はオオタヴィン監督の『いただきます』シリーズなどの映画をご覧になると、とても分かりやすいです。教育に携わる皆さんはもちろん、地域の方、保護者、子どもたちみんなで学べる機会を増やしていくことも大切だと思っています。 今、全国でオーガニック給食の波が広がっています。白山市も動き始めましたみんなの宝である子供たちにもっと安全でおいしい給食を。私たちも子供たちも、100%食べた物でできています。食育に一步ふみこんだ目標設定を何卒お願い致します。	そうしたことから、オーガニック給食の提供につきましても、今回、新たに本案に記載したのですが、安定した食材提供の課題もあるため数値目標等の設定は難しく、今後、生産者とも協議のうえ実現に向けて取り組んでいきたいと考えております。
「情報教育の推進」について ここ数年で生徒一人ずつにパソコンが支	学校では、児童生徒ごとに指導要録や通知表、健康診断票、家庭状況調査票など多

ご意見、ご要望	市の考え方
給されるなど、学習環境が大きく変化していますが、それに伴い個人情報の取り扱いについて疎かになっている、もしくは対応しきれていない、詳しい人材がいないため企業の言いなりになっている、といった危機感があります。これについて、地域、保護者への情報公開と、個人情報を取り扱うアプリの導入などについて再検討をお願いしたいと思います。 最近、保育園や小学校の全員に導入が推進されたアプリ、「テトル」「こどもん」等について、企業が取得し閲覧できる情報は何かでしょうか。本来、市や公的機関しか持っていなかった生徒の個人情報を企業が取得しているのだとすれば、それは大きなリスクだと思います。また、先生達が使用しているC4t hについては保護者に情報開示がありませんが、生徒の成績や出欠状況などを管理していると聞きました。これらもどこまでの情報が企業から見れる状態なののでしょうか。生徒が使用しているパソコンについても学校でどのように使われているか保護者にはよく分からず、個人情報が守られているのか不安です。 実際、2024年3月30日付の読売新聞には、「学習用端末の個人情報保護に不備、文科省が全教育委員会を調査へ…個人情報の管理徹底を促す」という記事が掲載されました。この記事の中でも、「GIGAスクール構想」の下、児童生徒一人に1台渡されている学習端末内では民間業者の学習アプリが使われ、児童生徒の氏名やテスト結果などのデータが収集されている、とあります。これについて学校に問い合わせても学校側もほとんど情報を持ち合わせていません。	くの個人情報を管理しており、紙媒体やデジタルのいかんによらず慎重に取り扱われるべきものであると認識しております。 そのうえで、基本施策19「情報教育の推進」における施策の方向性（3）「教育ネットワーク環境の整備」において、安全性の高い環境整備を進めることとしています。 なお、本市では、文部科学省の「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」等に基づき、「白山市教育委員会に係る情報セキュリティ確保のための実施手順書」を策定しており、物理的・人的・技術的運用管理等における各種セキュリティ対策を定め、パスワードの管理やネットワーク接続の制限、コンピュータウイルス対策や情報持ち出しの禁止などを詳細に規定のうえ、運用しております。本市のGIGA端末やシステムの運用保守事業者とも、この実施手順書のもと、機密保持契約を取り交わしており、個人情報を漏洩させないことを遵守していただいております。 また、校務支援システム「C4t h（シーフォース）」は、石川県市町教育委員会連合会を通じて、本市を含む県内各市町が導入しているものですが、本市と同様に、機密保持の誓約が契約上明記され、情報漏洩の防止に努めています。 また、小中学校向け保護者連絡ツール「テトル」や、学習用端末における学習アプリとして導入している授業支援ソフト等については、事業者が個人情報を目的外利用しないことや第三者へ提供しないことなどをプライバシーポリシーで明示しており、市としてもこれらに留意していく必要があると考えております。

ご意見、ご要望	市の考え方
個人情報とは企業が喉から手が出るほど欲しいものです。保護者は我が子の情報を、信頼できる市や学校だから渡しているのであって、民間企業に渡しているのではありません。 かと言って、先生たちの業務負担をなくしていく努力ももちろん必要だと思いますので、デジタル化をすべて否定しているわけではありません。一番よい方法だと思うのは、地元の顔が見える企業にシステムをパッケージとして作成してもらい、クラウドの環境で使用し、情報自体は市や学校が管理するというやり方です。 急速に発展する情報化社会になかなかついていけませんが、デジタル化を取り入れるからには、情報保護についてもっと学び、保護していく必要があると思います。どんなに大企業であっても情報流出していますし、「絶対流出しない」というのは不可能だと思います。その点を鑑み、市や学校が預かる子供たちの情報についてはできる限り学校の中で完結する方法で管理できる仕組みづくりをお願い致します。 最後に、2025年1月6日付の読売新聞で「保護者の学校への相談・苦情『民間事業者が対応します』...教員の負担軽減へモデル事業」という記事が掲載されました。文科省がこのモデル事業を実施するという記事で、唖然としました。情報漏洩どころではありません。教員の負担軽減を名目に、保護者は先生と直接話す機会も今後なくなっていくのでしょうか。。大企業の問い合わせ窓口のようにAIが応答し、とんちんかんな対応が繰り返される未来を想像してしまいます。家庭訪問などもあった昔に比べて、先生と直接お話する機会は減	なお、本市におけるGIGA端末やシステムの運用保守業務は、入札発注を経て、地元事業者と契約を締結しており、ご提案の「地元の顔が見える企業」ではありますが、肝要なのは請負先が地元業者であるか否かということよりも、情報漏洩がないよう機密保持を徹底することであり、今後とも委託業務の監督に努めてまいります。 最後に、民間事業者による相談窓口の設置について、本市で導入することは現時点で考えておらず、まずは保護者や地域住民の方々と良好な関係をつくることをめざして、直接対話することを重んじてまいります。

ご意見、ご要望	市の考え方
っているようにさえ感じます。先生の業務を圧迫しているのは何なのか、しっかり調査していかなければならないと思います。	